

十環生第2743号
令和5年(2023年)1月18日

株式会社北海道エコシス
代表取締役 鍛冶 彰男 様

北海道十勝総合振興局長



ダイオキシン類対策特別措置法に基づく立入検査結果について
令和4年(2022年)8月30日から31日に実施した、ダイオキシン類対策特別措置法
第34条第1項に基づく立入検査の結果を次のとおり通知します。
なお、今後とも排出基準を遵守されますよう、特定施設の維持管理に十分留意してく
ださい。

記

- 工場又は事業場名 株式会社北海道エコシス クリーンファクトリー
- 立入検査機関 北海道十勝総合振興局
- 分析結果 分析機関：地方独立行政法人北海道立総合研究機構
産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所

○ダイオキシン類対策特別措置法

・排出ガス

特定施設 の名称	測定 箇所	採取年月日 及び時刻 (開始～終了)	排出 ガス量* (乾き m^3 n/h)	排出ガス中 の酸素濃度 (%)	測定結果 (ng-TEQ/ m^3 N)	排出基準 (ng-TEQ/ m^3 N)	備考
廃棄物焼却炉 (1号炉)	煙突	令和4年8月30日 (10:38~14:38)	7,120	11.5	0.11	5	
廃棄物焼却炉 (2号炉)	煙突	令和4年8月31日 (10:38~14:38)	6,680	11.7	0.068	5	

*排出ガス量の算出には流速測定時の排ガス温度及びガス組成を使用。

・ばいじん等

試料の種類	採取年月日	総ダイオキシン類 濃度 (ng/g)	ダイオキシン類 毒性等量 (ng-TEQ/g)	処理基準 (ng-TEQ/g)	備考
燃えがら (未処理)	令和4年8月31日 (9:55~9:56)	5.1	0.11	3	1号炉
ばいじん (キレート処理)	令和4年8月31日 (9:57~9:58)	72	1.3	3	1,2号炉 混合灰

(保健環境部環境生活課地域環境係 担当：川村)

1 参考事項等

(1) 施設概要

施設の名称	株式会社 北海道エコシス クリーンファクトリー		
施設の種類	廃棄物焼却炉	設置年月日	平成 20 年 10 月 16 日
炉の形式	固定式バッチ炉	燃焼物の種類	汚泥、廃プラ、木くず、他
定格処理量	0.405 t/h	稼働状況	24 h/日、30 日/月
排ガス処理設備	バグフィルタ	噴霧薬剤	消石灰＋活性炭

(2) 排ガス組成等測定結果

株式会社 北海道エコシス クリーンファクトリー 1号炉

		測定値	単位	備考
酸素濃度(連続測定)	最大	15.1	%	連続測定の結果より算出 詳細は別紙1のとおり
	最小	7.8	%	
	平均	11.5	%	
一酸化炭素濃度 (酸素濃度 12%換算) (連続測定)	最大	81.4	ppm	連続測定の結果より算出 詳細は別紙1のとおり
	最小	0	ppm	
	平均	10.7	ppm	
排ガス温度(流速測定時)	平均	50	℃	
排ガス温度(ダイオキシン類測定時平均)	平均	48	℃	
水分量		6.4	%	

株式会社 北海道エコシス クリーンファクトリー 2号炉

		測定値	単位	備考
酸素濃度(連続測定)	最大	14.8	%	連続測定の結果より算出 詳細は別紙2のとおり
	最小	8.0	%	
	平均	11.7	%	
一酸化炭素濃度 (酸素濃度 12%換算) (連続測定)	最大	71.2	ppm	連続測定の結果より算出 詳細は別紙2のとおり
	最小	0.3	ppm	
	平均	10.7	ppm	
排ガス温度(流速測定時)	平均	52	℃	
排ガス温度(ダイオキシン類測定時平均)	平均	48	℃	
水分量		17.9	%	

(3) 測定分析方法

測定項目	測定分析方法
酸素濃度(流速測定時)	ガルバニ電池式 (JIS K 0301)
酸素濃度(連続測定)	ジルコニア式 (JIS K 0301)
一酸化炭素濃度	赤外線吸収法 (JIS K 0098)
流速・流量	ピトー管を用いる方法 (JIS Z 8808)
温度	熱電対温度計を用いる方法 (JIS Z 8704)
水分量	吸湿管法 (JIS Z 8808)